

高校魅力化ルーブリックによる実践ノウハウ集

No.	項目	主体	1	2	3	4
4	カリキュラムの開発		地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある教育活動が、総合的な探究の時間等の一部分で個人的に取り組まれている。	地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、総合的な探究の時間や課題研究・学校設定教科・科目等においては、系統的・組織的に取り組まれている。	地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、総合的な探究の時間等と各教科・科目を相互に関連付けながら教育課程全体として、系統的・組織的に取り組まれている。	地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、教育課程外の取組とも相互に関連・関連付けられながら学校全体として、系統的・組織的に取り組まれている。
効果的な要素	【進め方】 【心構え】 【体制】 【アイデア】	学校	【進め方】中・高生に学びの機会や場を提供することで地域・地域に貢献できる高校生を確保する 【進め方】地域住民と入念に協議の打ち合わせをする(事前打ち合わせ必須) 【進め方】教員と地域住民の役割を明確にする(例:教員は生徒の注意を惹きつける等) 【進め方】1期年度の授業内容を伝達するなど、地域側に役割を伝えてイメージを持ってもらう 【進め方】地域連携活動の目的(体験の機会など)等により、生徒が積極的・やすい環境をつくる 【心構え】教育課程内外の使い分けを意識する	【進め方】中・高生に学びの機会や場を提供することで地域・地域に貢献できる高校生を確保する 【進め方】地域住民と入念に協議の打ち合わせをする(事前打ち合わせ必須) 【進め方】教員と地域住民の役割を明確にする(例:教員は生徒の注意を惹きつける等) 【進め方】1期年度の授業内容を伝達するなど、地域側に役割を伝えてイメージを持ってもらう 【進め方】地域連携活動の目的(体験の機会など)等により、生徒が積極的・やすい環境をつくる 【心構え】教育課程内外の使い分けを意識する	【進め方】地域連携等をカリキュラムに組み込むことで地域価値を仕組み化する(連携性のあるカリキュラムを検討) 【進め方】学校内で授業を実施する際、地域の協力を得る(連携性のあるカリキュラムを検討) 【進め方】地域の多様な多岐多岐の教育資源の一端に、コアを取り上げられる内容かどうかを追加 【進め方】地域で授業を実施する際、地域の協力を得る(例:生徒自身やカリキュラムに活用できる仕組みづくり(アンケート実施)や巡回授業など) 【アイデア】学校設定科目を地域の公開講座にする	【進め方】テーマは地域課題が前提であり、高校生に関心・興味も考慮(難い部分は大学教授などの専門家と連携) 【進め方】業務負担が大きい。人的資源の再配置(外部講師活用) 【進め方】協議の目的は地域のニーズを汲み取る 【心構え】教育課程内において(教育課程外へ移行する)と業務負担が増えるため 【心構え】教育課程内に限らず(教育課程外へ移行する)と業務負担が増えるため 【心構え】教育課程内に限らず(教育課程外へ移行する)と業務負担が増えるため 【アイデア】校内の研修会等を通じて、学校全体の意識を高める
		地域	【進め方】学校と入念に協議の打ち合わせをする(事前打ち合わせ必須) 【進め方】地域系部活動や同好会に外部のサポーターや外部顧問として参加する 【体制】授業の内容について、担当教員に改善点を提案できる関係性を構築	【進め方】行政には正式な手続きをして支援してもらう(謝金不要) 【進め方】学校側の授業をこまめに進めたいイメージが明確に地域に伝わっている 【進め方】関わっている地域のプログラムなどを生徒に紹介している 【進め方】地域住民に主に教育課程外で協働 【体制】地域協働に対して、地域側の意見を伝える場(会議やアンケート)がある	【進め方】関わっている地域側のプログラムなどに生徒が参加している 【進め方】授業で探究が展開した生徒から地域側へ連携できる環境がある(教員引率) 【体制】限られた地域・ソースの中で、どの学びの素材などをどの教育活動に配置するかを戦略的に決める 【心構え】地域側に対して学校と地域で意見交換できる場(双方向)がある 【体制】最終発表発表会まで、学校を目指すことができる年間マイルストーンがある。	【進め方】最終発表発表会時の生徒の様子イメージができており、学校と目指すことができる年間のマイルストーンがある。 【進め方】教育課程外の教育活動は、地域住民へ移行していく 【心構え】前年以降ではなく、生徒の理想によって地域資源を柔軟にアテンドする 【心構え】教員の負担をいかに下げられるかという点を保持して協議・協働する 【体制】担当教員と授業の内容を改善する話をする
6	校内推進体制の整備		スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、実際に動く体制はない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、皆勤や一部のメンバーが個人的に動いている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、実質的に動くチームや校内組織が整備されている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、教職員全体で組織的・一体的に動く校内体制が整備されている。
効果的な要素	【進め方】 【心構え】 【体制】 【アイデア】	学校	—	【進め方】PJ推進チームを立ち上げて、役割と責任の所在を明確にする 【進め方】PJ推進母体を設置することで、学校内に学校の方向性を伝播する 【進め方】探究の授業者を主担当以外の教員複数人で担当する 【進め方】カリキュラムに取り組み、担当する教員を増やすことで浸透を図る 【進め方】研修等で学校全体の意識を合わせ場をつくる 【進め方】主担当以外のメンバーが有意義な意見を出せる 【進め方】継続性(異動等)を考えたチーム編成をする 【進め方】学習をしながら横断的なチーム編成をする【プロフェッショナル型】 【アイデア】主担当は、アセスメントもしくは意思疎通を図る場所を配置する 【アイデア】slackなどSNSでコミュニケーションをいつでもとれるようにする	【進め方】探究活動や地域協働について専門家(大学教授)を招いて目録合わせ研修会を開催する 【進め方】担当者を選ばず多く任命する 【進め方】既存の組織や会議と意見を受け入れることで学校内に浸透を図る 【進め方】小さな会議から大きな会議へ共通認識を築く(大規模校) 【進め方】校内に浸透を図る際、学校長や教員に専門に共有する【プロフェッショナル型】 【心構え】主担当がなくても影響が小さい体制づくりをする 【心構え】定期的な会議で、適宜調整できるように協議できる 【アイデア】関わる分掌をきき込むことで、浸透を図るとともに負担軽減を図る 【アイデア】主担当に非業務を配置する 【アイデア】主担当に異動の可能性が高い、副担当を配置する	【進め方】分掌や委員会を解散し、平時の分掌や委員会を担当する(学校内に土壌がある場合) 【進め方】分掌や委員会を継続する場合は、他業種(授業時間等)圧縮により、担当者の動きやすい環境づくりを行う 【進め方】継続性を考えて(異動時期を考慮)担当者任命をする 【進め方】実務会議(内閣会議)にコーディネーター等、学校外の人物が参加している 【進め方】中心となる人が動きやすいよう、毎身体裁を柔軟に変える 【アイデア】主担当に引き継ぎを想定した副担当をつける
		協働体制の構築	高校と関係機関等が、対話や合意形成を行う会や体制はない。	高校と関係機関等が、情報交換や意見交換を行う会はあるが、方針・計画・予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されていない。	高校と関係機関等が、方針・計画・予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されているが、事務局系の過剰に留まり、具体的・実質的な対話はされていない。	高校と関係機関等が、具体的・実質的な対話を行うとともに、方針・計画・予算等の承認・意思決定を行う体制が構築されている。
効果的な要素	【進め方】 【心構え】 【体制】 【アイデア】	学校	【進め方】関係機関には、委員等の依頼ではなく、なにを期待しているかを伝達する 【進め方】多様な立場(大学、企業、NPOなど)に委員を依頼する 【進め方】実施していることを中心に協働体制を構築する 【進め方】時間をかけていく 【進め方】生徒の実態に貼れる場をつくることイメージをもってもらう 【アイデア】設立への準備委員会を設置する	【進め方】委員によっては濃淡があるため、淡い委員には積極的に連絡を取る 【進め方】お互いに負担の少ない協働体制のあり方を模索する 【体制】委員で核になるのは、今の学校の実態・目標に最も近い方になる	【進め方】委員によっては濃淡があるため、淡い委員には積極的に連絡を取る 【進め方】お互いに負担の少ない協働体制のあり方を模索する 【体制】委員で核になるのは、今の学校の実態・目標に最も近い方になる	【進め方】利益は度外視して、地域の未来のために動く人を委員に選ぶ 【進め方】関係機関等は、ご意見書より実際に動く人とやりとりをする 【進め方】win-winを目指すのではなく、win-winにならないメンバーを選定する
		地域	【進め方】委員の中で会議等を主導する人を選定する 【進め方】委員の中心になる人は、実際に学校と活動している人を選定する 【進め方】発表会の評価者やアドバイザーとして、役割を明確に設定して打診する 【進め方】コミュニケーションの量は委員によって変えながら関係性をつくる(一律のコミュニケーションはNG)	【進め方】会議だけの関係性に留まらず、自身の人脈や自身のリソースを高校に提供する 【心構え】お互い負担をかけたしやれる形を模索する 【心構え】関係機関等が自身の役割を把握して会議等に参加する 【心構え】生徒の発表や授業見学によって、関係機関等にイメージが共有されている	【進め方】会議だけの関係性に留まらず、自身の人脈や自身のリソースを高校に提供する 【心構え】お互い負担をかけたしやれる形を模索する 【心構え】関係機関等が自身の役割を把握して会議等に参加する 【心構え】生徒の発表や授業見学によって、関係機関等にイメージが共有されている	
		管理機関	【進め方】目的を決めて、その目的が達成できる人選を行う 【進め方】実践者だけでなく、カリキュラム開発についてのアドバイザーを確保するために大学教授も任命する	【進め方】多様な人選で、学校では出ない意見も出るような場としての機能させる 【進め方】生徒の居住地域及び、専門と関わりのある市町を委員に選ぶ 【心構え】町の人と繋がる意欲的機能を有する 【心構え】生徒の探究学習を後押しする機能を有する 【アイデア】準備委員会を、補正予算で対応する	【進め方】リアルな地域課題を語るメンバーを委員に選ぶ 【進め方】事前準備を入念にし、申請の段階でアドバイスをもらえる関係性をつくる 【進め方】地域の発展として地方自治体と協働しての対話も実施する 【進め方】両方向ではなく、それぞれが方向を両方に傾けておくこと 【進め方】コンソーシアムの位置付けを担当する委員も選定する 【進め方】具体的な支援をする人(企業等)を委員に選ぶ 【心構え】コンソーシアム委員の選定理由が明確である 【アイデア】学校内部の主要メンバーもコンソーシアムへ入ることで、学校全体の取り組みに	【進め方】連携協定を結ぶことで、継続性を担保し、中身を充実させる 【進め方】コンソなどの外部との会議に「オブザーバー」も命じてできるだけ多くの教員が出席する 【進め方】コンソメンバーは学校が主体で選定、教員数は助産する 【進め方】コンソのメンバーを毎年見直しする仕組みづくり
8	協働活動の推進	高校と関係機関等は目標の共有や協働活動ができていない。	高校と関係機関等が目標の共有はしたが、連携した具体的な活動は実施できていない。もしくは、学校からの依頼に応じた連携活動は実施しているが、目標の共有はできていない。	高校と関係機関等が目標を共有し、計画的に活動を実施できているが、地域や関係機関等が学校を支援する一方的な連携に留まっている。	高校と関係機関等がパートナーとして目標を共有し、学校を支援するという一方的な活動に留まらず、多様な協働活動を継続的に実施できている。	
効果的な要素	【進め方】 【心構え】 【体制】 【アイデア】	学校	【進め方】決めた目的に沿った運用をする 【進め方】関係機関と会議以外でコミュニケーションがとれる 【アイデア】年間計画と開催日固定する	【進め方】関係機関等とは、フォーマルな会議の前にも事前打ち合わせで目録を合わせる 【進め方】関係機関(生徒)が学校の実態を伝える場をつくる	【進め方】協働する地域の方を、発表会等に招待する 【進め方】教員間で対話や協働について、有意義な協議を開催する 【進め方】オンラインでの協議も導入することで関わる人の負担の軽減を図る 【進め方】高校と関係機関等との協議のやりかたについては自由に意見をもらう 【進め方】関係機関が議決の取り組みにして自由に意見を言えるフォーマルな場がある 【進め方】関係機関等との会議は、報告や共有は最小限にして、意見交換やテーマを決めた協議に活用する 【進め方】関係機関等が生徒の成長実感に立ちあがるか場をつくる	【進め方】地域側が学校と協働するときに、学校にとつてどうという相手の立場で考える機会を仕組み化する 【進め方】コンソーシアムは解散しても、個別に協働体制は維持する 【進め方】委員を任命しないことを学校ではなく管理機関に連絡する(地域との対立を避けるため) 【進め方】学校の状況に応じて委員を変更する 【進め方】一談論ではなく具体的な話ができるように、生徒の実態を伝える場を設ける仕組みを構築する 【体制】学校運営協議会との兼ね合いを検討する(例:持続可能な体制づくり)について協議する 【体制】関係機関同士との連携が求められる会議の場や発表会などの連携する
		地域		【進め方】共有だけではなく、地域側の意見を聞く場をつくることによって、学校だけでは考えられない新しい視点が入る 【進め方】生徒と教員を持つことでイメージを高めるとともに議論を促進する 【進め方】ワーカーズではなく、透明性を担保、オープン 【進め方】関係機関等に学校の取り組みを紹介してもらう 【進め方】関係機関等の適切な人数を選定する	【進め方】フォーマルではない勉強会を年に何回開催する(業務時間内) 【進め方】関係構築ができた後、オンラインにて関係機関と会議や意見交換等を実施 【進め方】生徒が探究活動等で地域と繋がりやすい時に連絡できる環境を用意 【体制】会議以外の時に学校側と連絡するときに窓口がある	【進め方】学校が指名して、県教委が任命することにより、委員の負担が軽減しやすい 【進め方】関係機関とはSNS等を活用し、気軽に連絡し合える関係を構築する 【進め方】学校の状況によって最適な委員を選定する 【心構え】地域側が高校生から学ぶという姿勢を持つ
		管理機関	【進め方】活動報告のなかで課題を共有し、助言をもらう 【進め方】事前資料を想定、認定される課題等を検討して資料を準備しておく		【進め方】指導ではなく伴走という管理機関のスタイルを確立する 【進め方】基盤自治体としてイメージを高めるとともにコンソの役割が明確である 【進め方】地域の窓口だけではなく、他の視点もつてくれることを期待する 【進め方】生徒の探究活動が地域のためにいかに地域を消耗していないかという課題を確保する 【体制】委員への連絡は役割分担及び学校内部のチームで実施する	【進め方】コンソ委員は会議以外の発表会等にも参加する 【進め方】謝金以外のところで個別に連絡をとる関係性がある 【進め方】生徒と教員が自らテーマを話し、設定する 【進め方】相手の立場に考えて、利害関係の一致を確保する 【進め方】生徒の興味・関心と地域の未来の課題を一致させる 【心構え】連携・協働は流動的ということを認識する